

劔澤～仙人新道～雲切新道

2015.9/14～17 5名で

長い天候不順で延び延びになっていた室堂～劔澤～仙人新道～雲切新道～樺平の3泊4日の山行によりやってきました。呼びかけに応じた新潟市のO・S・Oさんと長瀬町のUさんの5名で。全員無職に近い状況なので天候を見て、かつ小屋の混まない平日の山行で天候にも恵まれて（最終日は小雨でしたが）小屋も空きすきと和気藹々の楽しい山行になりました。

9/14（月）晴れ 大町市文化会館駐車場 9：30～10：10 扇沢駅 10：30～（トロリーバス・ケーブルカー・ロープウェイ乗り継ぎ）11：55 室堂駅（昼食）12：20～15：30 別山乗越 15：50～16：40 劔澤小屋（泊）

9/15（火）晴れ 6：00～8：00 真砂沢ロッジ 8：20～9：05 吊り橋 9：10～10：05 二股吊り橋（昼）10：45～13：20 仙人峠 13：25～14：00 池の平小屋 14：25～15：55 池の平山南峰（2555M）16：05～17：15 池の平小屋（泊）

9/16（水）晴れ 6：00～6：50 仙人池ヒュッテ 7：25～8：35 雪溪～9：35 仙人温泉小屋 10：05～11：25 雲切新道最高点～15：00 仙人谷ダム～16：20 阿曾原温泉小屋（泊）

9/17（木）小雨 6：40～13：05 樺平 13：10～（トロッコ列車）14：28 宇奈月温泉 14：56～（電車）15：19 新黒部駅～黒部宇奈月温泉駅 15：49～（北陸新幹線 はくたか570号）16：02 糸魚川駅 16：48～17：52 南小谷駅 17：55～18：48 北大町駅～18：55（解散）Uさんの車回収の為に扇沢へ行き、19：55帰宅。

扇沢の無料駐車場は平日だったので停められた。乗り物も平日なのでスムーズに乗り継ぎできた。今回の山行は室堂までと最後の樺平からの乗り物代が高額になる。室堂は平日とはいえさすがに観光客や登山者が多い、名水を飲んで立山連峰等を眺めながらの贅沢な昼食を食べる。

黒四ダム



室堂駅前の名水、奥は立山



みくりが池、右は龍王岳左は立山～別山



別山乗越目指して歩く、私は次回・次々回の山行で歩くコースや泊まる予定の雷鳥荘等を見ておく。乗越からの剣岳は何時見ても素晴らしい、少し雲がかかっていたが。劔澤小屋は何故か混む小屋であるが（劔岳登山には劔山荘に泊まったほうが便利だと思うのだが）蚕棚の下段5名を占拠できた。この小屋は劔澤雪渓を下る宿泊者には「雪渓の状況を聞く」事を義務付けている。遭難事故防止上有難い事だし、必要性もある。

岩の殿堂 劔岳



劔澤雪渓を下る前に



2日目は劔澤雪渓を下る。この雪渓は日本一の規模（幅・長さ共）だと思う。真砂沢ロッジで仲間がトイレを借りようとしたら小屋番に断られた。トイレ使用を認めない小屋は前代未聞だ。（そこらで適当にやれと言ったそうだが、自然環境保護の推進者でもあるべき山小屋の発言だとは信じられない）

劔澤雪渓



裏劔と氷河に認定された三ノ窓雪渓



ロッジから先に今年はまだ雪渓が残っていて夏道が通れないと剣澤小屋で聞いていたのではしご谷乗越への道で迂回するので時間がかかった。(3年前の9/21~23に剣岳に登った後に、はしご谷を越えて黒四ダムまで歩いた時には全くそこには雪は無かったから今年に残雪が多いのだ) 二股吊橋で早昼を食べる。気持ちの良い場所で休憩の適地だ。仙人新道は12年前の紅葉期に歩いた懐かしい道だ。途中からは裏剣や今日登山予定の池の平山や毛勝三山、日本で初めて氷河に認定された三の窓雪渓も見える。剣岳には長次郎谷・平蔵谷・小窓など立派な万年雪の大きな雪渓がある。

小窓雪渓と右が池の平山



池の平小屋、池の平山南峰と右は毛勝三山



予定より早く池の平小屋に着いたし天気も良いので池の平山へ予定通り登る。女性陣2名も同行希望で4名で登る。道が細く一部は被っているが何故か昭文社の山地図では一般道(実線の)になっている。ここも高天ヶ原と同じで昔モリブデンの鉱山があった所だ。「モンローの唇」と呼ばれる残雪も見える。小屋から標高差が455Mあるだけあって急坂が続く、途中から雲が出てきて展望も効かなくなってしまった。山頂からの展望は残念ながら無。登りのコースタイムが10分余計にかかったので下山を急ぐ。

池の平山登山道から「」モンローの唇」



池の平山山頂で



小屋番の話では往復2:30との事だった(昭文社の山地図のコースタイムは2:10)ので17:00までに小屋に帰りたかったので。ところが森林帯まで下った先で小屋の親父さんが迎えに来た。親切心は有難いが17:15に小屋着なのでそんなに遅れていないのだが。複雑な気持ちだった。この小屋は裏剣八峰や鹿島槍ヶ岳、眼下の平の池などの展望が良い

ノンビリしたい向きにはお薦めである。小屋番さん達も好印象だった。他の宿泊者は翌日北方稜線ルートで剣岳に登る単独行だけでユックリ寝られた。

裏剣岳八峰をバックに



仙人池で裏剣バックに



3日目は懐かしい仙人池からの裏剣岳八峰をユックリ眺めてから雲切新道へ。仙人池ヒュッテは小屋番がお茶をわざわざ外まで持ってきてくれ雪溪の状況も教えてくれた。通りすがりの登山者にも心配りする心使いの関心な小屋だ。途中の仙人温泉小屋で缶ビールを注文したら「登山中に飲むのは良くない」と言われた。(売ってはくれたが、胡散臭い親父だ) この先は橋で川を渡ると思ったら、

仙人温泉小屋



何と雪溪が残っていてしかも対岸の登山道へは見た目 2M位離れている。雪溪の厚さがどの位なのか不明で近寄れ無い。さてどうするか？見上げると 100Mほど上部は対岸まで何とか雪がつながっている。雪溪の上にも歩いた足跡がある。偵察に登り始めたら何と女性の単独行が降りて来た。雪溪を覗くと厚みもあり渡れそうだ。事情を聴くと3時間ヤブコギをして登山道を探したが藪が濃くて大変で諦めて戻ってきたとの事。

見るとズボンは泥だらけだ。見上げるとヤブコギした形跡があるので皆で根曲り竹の中を登る。100M位下には登山道があるのだから適当な所で下へトラバースすれば道に出る筈だ。源泉が吹き出ている地点で見下ろすと案の定登山道が見えるし、源泉場なので高熱で樹木も生えていないので歩くには楽だ。登山道にはそんなに時間を潰す事無く出られたが、すぐ手前にある小屋には何の掲示も無かった。ビールを買った時にも何の注意や案内も無かった。(その女性に夜同宿した阿曾原温泉小屋で聞いた所では、仙人温泉小屋に泊まったが何の話も無かったとの事、5時に小屋を出て雪溪を渡ろうとしたが、暗いし分らずにヤブコギをしたとの事、無理だったので引き返して又探すつもりだったとの事。樺平まで歩いてその日に車のある宇奈月温泉まで行くつもりだったとの事。65歳福岡県在住で三百名山残り6座だと言っていた。5時に小屋を出たなら我々がそこに着いたのが

10:10頃だったから5時間近くさまよっていた事になる。小屋までは10分ほどの所なので何で小屋に戻って相談しなかったのか不思議でもある。阿曾原温泉小屋で目が合っても声をかけてこない所を見ればプライドが高く、かちっきな頑固女のような。普通ならお世話になりました位の礼は言うはずだが)

仙人谷ダム



それにしても山小屋も千差万別で自分の小屋のすぐ近くの雪渓の状況も調べない小屋があるのには驚いた。小屋の宿命でもある遭難事故防止の意識が全く欠けているようだ。腹の立つ事はこの位にして、雲切新道は旧道（仙人谷から直接阿曾原温泉に下るコースであったが遭難事故が多発した）に代わる安全な登山道として2007年7月に開通したがコースが長くなり時間もかかるようになったが整備されて、又踏まれてきたので問題はないが、標高差が大きくて急な坂が多い。荒沢岳に登った時に梯子の数が日本一とか書いてあったが、ここはロープの総数とロープの長さの総延長が日本一だと感じたが。ご存じの方はいますか？膝にかなりの負担をかけて仙人谷ダムに下りました。下の廊下を歩いた時に泊まった懐かしい阿曾原温泉小屋は1部屋貸切でユツタリ。劔澤小屋・池の平小屋それぞれに風呂はあったが入らなかったの、早速Uさんと露天風呂へ。記憶よりも遠かったが2人だけで石鹸も置いてあったのでサッパリして疲れも抜けた感じになった。夕食の時間が近づいていて時間的には長湯が出来なかったのが残念だったが。小屋番は男だけだったが感じの良い若者達だった。通すると連日大変な混雑になるだろう。

4日目は朝食時間が6時からと遅かったのと連日の疲れで足の運びが悪くなって、しかも出発時からの小雨で時間もかかってしまった。私とOさん以外は初めて歩くコースで「水平歩道」は感激したようだ。

小雨の中を出発



水平歩道で



私は帽子に雨具の帽子を被っていて、足元注意になって木の枝やくり貫いた低い岩に8回も頭を強打してしまい痛かった。

絶壁の狭い道です



予定したトロッコ列車に間に合わず、宇奈月温泉での入浴ができなくなり、乗り継ぎの待ち時間も多くなったりで帰りが遅くなってしまった。話の種に北陸新幹線に13分間乗ったり（黒部宇奈月温泉～糸魚川間一駅、特急料金は860円、高いね！）で、総じて最終日以外好天に恵まれて、和気藹々で事故も無く楽しい山行になりました。

トロッコ列車



北陸新幹線に 乗車時間13分



同行者の皆様有難うございました。来年からは年相応のユックリ・ゆったり山行にしましょう。

赤沼健治